

感動の2日間 ---2月28・29日の記録

青少年文化体験フェスタ参加の子ども達の演技がすばらしかった。小ホール会場を発表の場として世話できてよかった、というのが実感。

願わくば、立見者もいる割れんばかりの拍手で誉めてあげたかった。「足を運んで見てやろう」「聞いてやろう」このような方々を、いかに大勢に周知させ集められるか。

個々の発表内容のレベルアップには、まさにたくさんの人たちが見てくれている、聞いてくれている、このことが一番の良薬。課題ははっきりした。



「世代を超えて」統括 小室 勝男



一席目(21名)、二席目(15名)、灰手前の体験(6名)と、多くの方々に香りの世界を楽しんで頂けたようでよかったです。

梅を主題にしたお香席で、古(いにしえ)の和歌を思いおこして下さる方や、和歌を詠んで下さる方もおられ、本当に素晴らしい一期一会のお席でした。ありがとうございました。

「香席の体験」担当 狭山香道倶楽部 井村 佳子



書道体験は、芳竹会としてはいつも作品を書いてもらうようにしている。これは自分でも気づかない別の自分の発見に役立つと考えてのことである。体験者は、内面を表現するおもしろさを発見するようである。

書写がきらいであった子供が、ダイナミックな書き方で描かれる作品を見、体験することにより、書写も今までと違った気持ちで書くようになったと聞かされると、「体験フェスタ」の意義を感じる。

「書の体験」担当 芳竹会 高戸 芳川

大ホール・ホワイエというよい展示場所をいただき、「四季の装いに季節の花を添えて」というタイトルで、広く皆様にみていただきました。質問も多くいただき、関心を寄せていただいたことを嬉しく思います。おかげさまで着装の「体験コーナー」も定員に満ち、準備も楽しく取り組み、「技」を「術」に高められたと思います。

台の運搬、並べ方へのお口添え、作品記名等へのご協力、大変ありがとうございました。

「帯結び・着装の体験コーナー」担当
うるおいきもの文化普及会 増田のぶ子

